

◆必要な道具

1. ケージ
2. 食器、水飲み入れ
3. 止まり木
4. 食餌
5. 逃走防止用のカギ (ナスカンなど)
6. 温度計
7. 保温器具
8. ケージカバー
9. 移動用キャリーケージ
10. 水浴び用容器(水浴びが苦手な子もいます)
11. おもちゃ
12. ヒナであれば保温ケース(プラケース)

◆引き渡し当日は

家に着いたら餌とお水の準備をしてから鳥さんをケージに入れましょう。

幼鳥以上は、ケージの環境に慣れるまで平均3日ほどかかります。(ケージの場所が決まったら動かさないようにしましょう)

優しく声をかけながらお世話をします。警戒心が溶け始めると、自らケージの出入り口にくるの
で待ちましょう。

初日は食欲が落ちますが、基本的にお腹が空けば食べ始めます。

ケージの上からタオルなどをかけて、少し隠してあげると安心して食べる場合が多いです。

鳥さんとの信頼関係を築いていきましょう。※別紙参照

◆放鳥

1日30分くらい出して遊んであげましょう。

窓やドアが閉まっていることを確認して放鳥しましょう。

カーテンはレースのものを引いておきましょう。窓に激突すると危険です。

◆病 気 ・ 怪 我

羽根を膨らませていたり、気になる行動があった場合はとにかく **保温** です。病院に連れて行く間も保温です。通常は20~25度、病気の場合は30度まで上げて保温します。(ただし、熱中症には気をつけてください)

◆睡眠時間

10 ~12時間はとってあげましょう。

睡眠時間が短いと、イライラしがちなコになる場合があります。

🐣 雛の飼育セット

○プラケース

病院へいく時にも使えます。

怪我や病気の最初の手当は**保温**です。

成鳥になっても、調子が悪ければこの中で保温です。

※鳥専門病院は基本的に予約制です。なので待ち時間はプラケースで待機します。



○ペットヒーター/パネルヒーター

※温度計

ひなのうちはケージ内25～27度にしてください。
(ひなの体温は40度です)



○バードマット

ペットシートを敷いてマットを敷いておくとお手入れが楽です。
(なくてもOK)



○パウダーフード

給餌スプーン

(温度計)

お湯で溶いて与えます

40～45度 (40度を下回ると途端に食べなくなります)





幼鳥を迎えたときの接し方ポイント ※とても大事

① 無理に手に乗せない

逃げるのを追いかけて回すと「手＝嫌なもの」になってしまうので、自由を尊重する。

② 手を“楽しい場所”にする

手にごはんやおやつ（小松菜や粟穂）を置いて誘導

手のひらで遊べる小さなおもちゃを使う。寄ってこなくても無理に追いかけない。

③ 放鳥時間を工夫

好奇心を満たせるよう、短時間でも毎日部屋で遊ばせる。

※ただし危険物は徹底排除（コード、観葉植物など）

④ 「カムバック」練習

手に乗ったらすぐ褒める・おやつをあげる

短時間でも「戻ると良いことがある」と覚えさせる



しつけと心構え

- 幼鳥期に「嫌な思いをしないこと」が一番大事。
- 成長すると反抗期や発情期でさらに自己主張が強くなる場合があり、幼鳥期に「人＝安心」と覚えた子は信頼関係を保ちやすいです。

✨ 今の時期は「手にじっといる子」に育てるよりも、「人のそばで安心して遊べる子」にしていくのが正解です。

そうすると、大人になってからも自然に肩や手に戻ってきてくれるようになりますよ。

幼鳥の引き渡し後の3日間が大事な理由

最初の3日間は「休息と安心を与える時間」です

この準備期間をきちんと守ると、その後のなつき方や人への信頼度が大きく変わります。

①外に出さない

病院以外は放鳥せず、ケージの中で休ませる

引っ越しストレス+環境変化で体調を崩しやすいので必須

②ケージを動かさない

設置場所をコロコロ変えると不安になる

安定した“自分の居場所”を覚えさせることが大事

③声かけで安心させる

ケージ越しにやさしく声をかけるだけで十分

人の存在＝怖くないと理解してもらう時間

④指を入れない

この時期に無理やり触ろうとすると「人＝怖い」と覚えてしまう

信頼関係が育つ前は「見る・聞く」で十分



お迎え直後に子どもに世話をさせない理由

- 信頼関係の一貫性が必要
→ まずは「この人（大人）＝安心・ごはんをくれる存在」と覚えさせることが最優先。
- 安全面
→ 子どもは無意識に大きな声を出したり、急な動きをすることがある。それが鳥にとって強い恐怖体験になりやすい。
- お世話は必ず大人と一緒にいきます。
→ 「鳥が安心している時だけ」子どもが参加。怖がったり逃げたらすぐやめる。

まとめ

最初の信頼関係づくりは「大人と鳥」が基本。

子どもは鳥が十分に慣れてから、ゆっくり仲良くなる機会を作っていきましょう。